

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690600022		
法人名	大西食品株式会社		
事業所名	グループホーム正心		
所在地	徳島県三好市井川町吉岡141番地1		
自己評価作成日	平成23年1月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3690600022&amp;SCD=320">http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3690600022&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成23年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日ごろから、行政や医療機関との連絡を密にして連携を図っている。家族の来訪時には、利用者の体調や状況を細かく説明して話し合い、介護計画に反映している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎月、市社会福祉協議会の職員の来訪があり、利用者に歌や言葉遊びを取り入れた口腔ケアを行っている。地域の力を得て、利用者の健康と楽しみの支援を行っている。100歳以上の2名の方が元気に生活している。利用者一人ひとりの好みや要望、体調等に合わせた食量や食事形態等に細かい配慮を行っている。食器や食材、季節感、地域性等において様々な工夫をしており、家庭的で楽しみのある食生活の支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示し、住み慣れた地域でその人らしく心から落ち着いた毎日が送れるように常に理念を念頭に置いてケアに取り組んでいる。	代表者は、職員会議等の際に、理念について話し合っ意識づけを行っている。職員間でも申し送り時や日ごろから話し合っており、理念に沿って取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近所の方が気軽に立ち寄れるよう、事業所や職員は明るい雰囲気づくりに努めている。催し物の案内や地域活動に参加できるよう努めている。	代表者は自治会に所属しており、事業所の説明をさせてもらったり、地域からも防災訓練への参加の申し出がある。近隣からは、野菜や果物等も差し入れをいただくなど、双方向的な交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	県や市からのお知らせや事業所発行のお便りを地域の方に配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。家族や行政機関の担当者等を招き、事業所乃サービスの質の向上に活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催し、事業所の状況や行事等について報告している。また、参加者から出された情報や意見等を参考にし、事業所の理解とサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者には、日々きめ細かい指導や的確なアドバイスをいただいている。毎月、地域包括支援センターから歯科衛生士の派遣があり、口腔ケアの大切さを教えてもらっている。	市担当者との関わりを大切に考え、事業所の実情や困りごとなどの相談を行っている。日ごろから、連携を密に図り、様々な情報や意見をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロへの手引きを活用し、日ごろから職員間で話し合っている。利用者の行動や行きたい場所の把握に努め、家族の了承を得て支援している。	見守りを重要視している。本人の気持ちや行動をよく把握し、ともに行動する姿勢で支援している。玄関から庭先にも自由に出入りができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、利用者の心に届く声かけや態度等に留意しながら支援しており、日々のケアの内容や利用者の体調等を管理者に報告している。現在、虐待に該当する事例は無い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、職員が権利擁護に関する制度を理解できるように説明を行っている。現在、制度を利用している方はいないが、必要に応じて活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に、契約内容や重要事項にそって詳しく説明し、理解を得られるように努めている。また、契約事項に変更がある場合はそのつど説明し、承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの不満や意見は、直接聞いたり意見箱を設置するなどの対応を行っている。出された意見等は全職員で話し合って運営やケアに反映できるよう努めている。	利用者の持病と食べ物との関係性や緊急を要する疾病への対応等について、家族の来訪時に家族に寄り添って意見や要望を聞き把握している。出された意見や要望等について全職員で話し合い、サービスの質の向上に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人ひとりから直接意見を聞き運営に活かせるように努めている。	代表者と職員が気軽に話し合える機会を設けている。日ごろの些細な出来事や意見、提案等について話し合い、全職員が運営やサービスの質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者がシフトに入ることにより、職員の気持ちに近づけるように努力している。各種手当を設けたり、職員一人ひとりが向上心を持って働けるような職場環境・条件の整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務中に、そのつど経験者が指導している。事業所内・外の研修に積極的に参加できるように配慮し、その他の資格取得を奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との相互訪問や意見交換を行い運営やケアに反映できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にできるだけ本人にお会いして不安等を把握し、信頼関係を築き安心感を持っていただくよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の状況や家族に困っていることなどを聞いている。必要なケアや希望に応じたサービスが提供できるように話し合い、安心してもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、必ず本人と家族にお会いして、必要とされている支援を聞き対応している。他のサービス情報の提供にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりができることを把握し、得意分野での役割を担ってもらい、お互いに気づかひや感謝の気持ちを伝えている。利用者より、生活の知恵をいただくこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日ごろの体調や精神状態、活動状況をお知らせし、きめ細かい対応に努めている。また、家族の協力のもと、専門機関への通院等の支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が培ってきた馴染みの関係を断ち切らないように、家族との相談を行っている。馴染みの美容院に行ったり、事業所への来訪時の対応に配慮を行うなど、気持ちよく関係を構築できるように心がけている。	本人が以前から行っていた編み物や折り紙、絵画、花の世話等を継続して行えるように支援している。また、友人や知人の来訪時に接待したり、家族と協力して馴染みの美容室に行くなど、馴染みの関係や繋がりを大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係に配慮し、座る場所や過ごす場所を工夫している。また、利用者一人ひとりの個性を尊重し、日常生活やレクリエーションを行う中で利用者同士が係わりをもてるように配慮し、職員が調整役となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後も、利用者や家族を訪問したり手紙を出すなどして状況の把握に努めている。また、必要に応じて情報提供等の支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との関わりの中で、会話や表情等から思いを汲み取って意向を把握している。意思疎通が困難な利用者に対しても職員一丸となって向き合い、希望にそえるように努めている。	利用者とゆっくりと寄り添える時間を設けて話しかけ、思いや意向を把握している。また、家族や関係者等に聞き把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者から生活歴や心身の状況を聞き取るとともに、日ごろの言動や行動から本人の好きなことや嫌いなことを見極め全体像を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な1日の流れはあるが、その日の利用者の心身状態等にあわせて希望に添えるように支援している。利用者の力を最大限に活かせるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、医師等に話を聞き、本人の心身状態や生活状況を把握して意見を反映させ、介護計画を作成している。	本人や家族、医師等の関係者と話し合って介護計画を作成し、3か月ごとに見直している。また、本人の体調の変化や家族の意見、職員の気づき等をもとに関係者で話し合っており、現状に応じた介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日ごろの生活や気づいたことは、個人日誌と全体日誌に記録し、申し送りやカンファレンス等で活用し、情報の共有化を図るとともに、介護計画にも反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員一人ひとりがそのつど柔軟な対応を心がけている。また、職員は連携のもとに対応しており、利用者や家族の希望に応じられるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歯科衛生士の来訪や運営推進会議での意見交換、地域交流センターからの書籍の貸し出しなど、地域資源を把握し、利用者が必要としているものを効率的に科sつよう着るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	相談や指示が仰げる関係を築けている。ほとんどが往診のため、利用者の身体状況は概ね把握できている。家族の協力のもと受診の支援を行っており、受診の内容や診察の結果は細かく情報提供してもらっている。	入居前からのかかりつけ医を継続して受診している。無床診療所がかかりつけ医となっている利用者への緊急時の対応については、家族や医師と話し合ったうえで適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を常勤配置している。日ごろの利用者の健康管理や状態変化を見逃さないよう、個人日誌や全体日誌に記録して情報共有を図り、全職員で対応できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	やむを得ず入院に至った場合は、事業所で作成した様々な記録を病院に提出するようにしている。入院中は頻りに足を運んで利用者の状態を把握したり、主治医と話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	あらかじめ家族や主治医と相談し、緊急時の対応を決めている。利用者や家族の希望に添えるように努めているが、看護職員が不在の時間帯があるため、家族には事前に説明を行って承諾を得ている。	全職員が、重度化や終末期に向けた事業所の方針等について共通認識を深めており、利用開始時に説明を行っている。利用者の体調の変化や家族の事情等について医師や関係者と話し合い、利用者や家族の意向に添った支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、全職員に周知している。定期的に、事故発生時の対応訓練や応急処置訓練等を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し全職員に周知している。利用者用の非常時持ち出し袋や災害時に必要なものを備蓄している。また、防災訓練を実施している。地域住民に対し、避難時の協力を要請している。	利用者一人ひとりに非常袋を用意し、廊下の目立つ位置に設置している。近隣住民に対し、非常時の協力をお願いしている。日ごろの散歩時等に避難経路や避難場所の確認を行っている。非常食や水等を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人記録を所定の場所で管理するようにしている。また、利用者の個人情報外部へ漏らさないように留意している。職員間の話し合いの際にも、声量に注意するなど心がけている。利用者への丁寧な声かけを心がけている。	日ごろの関わりの中で、言葉遣いや対応の仕方、本人の気持ちの大切さ等について、全職員で話し合い、利用者の人格を尊重したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	優しく穏やかな雰囲気です声かけを行うように努めている。また、ゆっくりと利用者の話を聞き、自己決定できるように表情や反応を注意深く汲み取って、希望に沿った支援ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースで生活できるように意向の把握に努め、必要に応じて声かけを行っている。また、		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室ごとに整理ダンスを構え、自分の好みに合わせて着替えができるように配慮している。化粧や身だしなみも本人の希望にそって支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓の準備や片づけなど、できることはお願している。利用者の好む調理方法や献立を聞いて食事に反映するようにつとめている。利用者の嗜好にあわせて、一部の献立を個別化している。	利用者の意見を献立に取り入れている。利用者準備等の手伝いをしてもらっている。季節の行事食や懐かしい食事の提供、食器の工夫、個別に食事形態を考慮するなど、食事が美味しく楽しいものとなるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と調理師が協力して、栄養摂取や調理方法の工夫を行っている。水分摂取にも細心の注意を図り、水分摂取量の少ない場合には主治医との連携のもと対応している。毎日の食事摂取量や水分摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態にあわせて口腔体操やケアを行っており、清潔保持に努めている。月1回、歯科衛生士を招いて、利用者とともに口腔ケアの大切さについて勉強している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のある方には、ベットにいる場合でもトイレに誘導している。尿意の無い方には、定期的に声かけを行ってトイレへ誘導している。また、自尊心に配慮した言葉かけに留意している。	全職員が、尊厳を損なわない排泄ケアに努めている。オムツをしている人にも、なるべくトイレでの排泄を促し、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材や牛乳、ヨーグルトの飲用、適度な運動、腹部のマッサージなどを実施している。必要な方には、医師と相談のうえ、マグミット・酸化マグネシウムなどを使用し便秘しないよう注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者のその日の身体・精神状況に配慮している。無理強いせず声かけで自己決定を促している。週2回は入浴してもらるように支援している。入浴剤を使用したり、季節によってはゆず湯なども実施している。	毎日、入浴できる体制を設けている。入浴を拒む場合には、声かけを工夫し週2回は入浴できるように努めたり、清拭や足湯も含めて検討している。ゆず湯等を用いて、気分転換を図る工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の今までの生活リズムに合わせた支援を心がけている。湯たんぽやアイスノン等の使用、添い寝、温かい飲み物を提供するなど、居心地よく休めるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬状況に関する周知を徹底している。また、服薬に変更があった場合には、そのつど報告して記録を行い、全職員が理解できるように努めている。薬は事業所で預かり、1週間ごとに分けて薬シートで管理している。服薬時には、職員が手渡して飲み終えるまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の把握に努めている。利用者の嗜好や趣味を現有機能と合わせて考慮し、個別に応じた楽しみや役割を見いだして支援できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い暖かい日は、デッキ等でお茶を飲んだり、散歩に出かけたりしている。ハイウェイオアシスまでお弁当を持って遠足に出かけることもある。また、家族の協力のもと、月に1～2回は外泊している利用者もいる。	年2回、小グループでお弁当を持って遠足に出かけている。また、家族の協力のもと外出や外泊を行っている。庭やデッキに出て気分転換を図ったり、ドライブに出かけることもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の安心のために少額のお金を所持している利用者がいるが、現在、事業所での金銭管理は行っていない。今後、家族と相談したうえで検討を行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、固定のものと移動可能なものがあり、いつでもかけられるようになっている。手紙についても、要望に応じた支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の花や置物を飾り、心が和むように努めている。窓には防火カーテンや網戸を設置し、光と空気の流れを調節している。加湿器や空気清浄機等を設置し、インフルエンザの感染予防に努めている。	居間に腰掛け式の炬燵やソファを設置している。また、食卓や椅子等、利用者一人ひとりの居場所があり、思い思いにゆったりと気ままに過ごしている。季節感のある飾りや置物、鉢植えの花等を配置しており、心が和む空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、畳やソファ、コタツ等を設置している。クッションやひざ掛け、枕も配備しており、思い思いに好きな場所で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	あらかじめ利用者と相談し、フローリングか畳かを決めてもらっている。ベットや布団も好みに応じて対応している。家族の協力のもと、使い慣れたものを提供していただき、利用者が居心地よく過ごせる居室の整備に努めている。	家族の写真や思い出の品物等を飾っている。利用者とともに植物のある部屋づくりを行っており、どの居室にも花を飾っている。使い慣れた家具や使い勝手の良い工夫を施し、生活感のある居心地のよい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関にスロープを設置するなど、バリアフリーとなっている。随所に手すりを設置し、利用者が安全に歩行できるように配慮している。洗面台は、車いす対応型のもを設置している。		